【行革甲子園2014】

取組市町名	松野町	所属	企画振興課

▽取組事例名	滑床観光再生プロジェクト２	▽取組期間	H23～ （継続中）

▽取組概要

「アウトドア体験で滑床観光再生プロジェクト」を全町的な取組みとすることで、豊かな地域資源の活用、住民意識の高揚による住民の参加・協力、公益観光窓口としての観光プラットホームを設置することにより、住民主体のまちづくりを積極的に推進し、魅力あふれる地域づくりを図る。

▽取組みの背景

平成24年度のいやし博を契機に、滑床渓谷ではアウトドアスポーツが盛んにおこなわれ、この集客によってアウトドアスポーツに特化した法人が設立される等、地域経済にとっても大きな効果がもたらされた。この滑床観光再生プロジェクトを町全体の観光振興につなげることが重要である。当町の地域資源が豊富にあり、その資源に関わる住民が大勢いるなかで、住民の参加・協力を得て資源を活用することはそこに住む人の故郷への愛着・誇りに繋がるものである。その地域資源を結びつけるのが観光プラットホームであり設置が望まれている。

▽取組みの狙い・具体的内容

（取組みの狙い）

地域資源の掘り起こし、整備、活用を住民自らが実践し、その活動に対して行政が支援をおこなうことにより、住民の郷土愛のさらなる高揚を図る。そこで生まれた資源を結びつける観光プラットホームを設置することにより、町全体での観光振興に対する機運醸成を図るとともに、観光客の利便性の向上を図る。

（具体的内容）

・平成23年度

いやし博を見据えた滑床アウトドア事業の検討

・平成24年度

いやし博においてアウトドア体験事業の本格実施。

松野町の課題であった遊休施設「万年荘」の利活用、各種団体の課題であったアウトドア活動の窓口一本化を実現するため、「万年荘」を滑床アウトドアセンターとして機能を持たせる。

・平成25年度

滑床観光再生プロジェクトを他地域の資源と結びつけたツアーの実施。

メインターゲットのひとつである関西地区でのPR強化。

住民による自発的な地域振興を促すため「森の国地域振興プログラム事業補助金」を制定。

・平成26年度

玄関口である「ふれあい交流館」の観光案内所部分の指定管理者をNPO法人として、公益観光窓口として整備し、各種地域資源のマッチングを合わせて行う。また、そのNPO法人の会員には、観光に携わる関係者を新たに入会させ、役員に就任ることで、町全体として持続性を意識した一体的な地域振興を図る。

▽取組みを進めていくなかでの課題・問題点（苦労した点）

本事業では、住民が主体となった取組み及びそれぞれの地域資源の魅力を発信し、マッチングするための組織が必要不可欠である。いやし博を契機に住民の機運の高まりは上昇傾向にあるが、町全体での観光振興を考えた場合、これまでの関係者だけではなく、さらなる広がりが求められた。

将来的にはNPO法人に旅行業資格を取得してもらい、着地型ツアー商品の造成が望まれるが、旅行業をおこなうための資金調達が問題である。

☆工夫した点

平成23年度から始まったプロジェクトは、事業内容の検討から始まり、組織体制の整備、ハード面での整備、ソフト面での整備と順を追って進めてきた。魅力ある事業を展開するためには、その取組みに対しての熱意が重要である。プロジェクト当初は１団体による事業からはじめ、その取組みを理解し、賛同する人や団体が除々に参画することで事業を順調にすすめ、より強固で持続性を意識した組織体制の強化を図るため、様々なステークホルダーの参画を求めた。

▽取組みの効果

財団法人松野町観光公社の解散以降、町の観光PRは行政が主体となっておこなってきたが、公益観光窓口を設置することにより、各種情報発信の幅が広がった。
町内の観光に携わる様々なステークホルダーがNPO法人に参画することにより、持続性と町をあげての観光振興の体制が整備され、町と住民組織の協働による地域振興の機運が高まった。
地域住民が主体となったイベント開催。

▽住民（職員）の反応・評価

観光振興によるまちづくりを積極的に進めてきた本町においては、さらなる観光振興をおこなうための体制づくりが必要であり、滑床観光再生プロジェクトを中心にした取組みは今後も必要不可欠である。

☆取組み効果を踏まえたフォローアップ

本事業の取組みは継続することにより、単年事業では得ることのできない相乗効果が期待できるものである。特にソフト面での広がりは本事業の生命線でもあり、行政としても住民主体の取組み等に対して、補助等を実施していきたい。

☆将来的な構想のほか、他団体へのアドバイス

将来的には、観光総合窓口が町の観光振興の中心となり、旅行事業者のない本町において、着地型旅行の企画を主とした、観光資源のPRを進めてもらいたい。アウトドア事業を中心とした他地域との連携も積極的に進めており、平成25年度は四万十川流域での連携をおこなったところである。今後は、リバースポーツの聖地である四国全体を視野に入れ、全国及び海外に向け情報発信をおこない、来訪者には１つの地域資源だけではなく、複数の地域資源を提供できるよう、また、求めてもらえるよう努力が必要であり、そうした地域資源のブラッシュアップも今後の事業展開では必要である。現在、滑床観光再生プロジェクトは第２章であるが、プロジェクトに終わりはなく、町の観光振興の発信拠点である滑床渓谷を中心に今後もプロジェクトを推進していく。